

RESEARCH & DEVELOPMENT

研究開発活動

当社グループ（当社及び連結子会社）の研究開発に対する取り組みは、事業展開と同様に日本を中心とした、北中米、南米、EMEA（欧州・中東・アフリカ）、中国、アジアの世界6極体制で行っています。当連結会計年度の当社グループ全体の研究開発費は21,917百万円となっています。当連結会計年度における主な研究開発成果は、次のとおりです。

ファスニング事業

ファスニング事業本部では、第4次中期事業方針を「新たな成長戦略展開（販売本数100億本へ向けて）」と掲げ、欧州での開発力を強化し高級品分野へ新商品を投入、マーケティングと海外R&Dの連携により提案を強化、また縫製基地のアジア移行にあわせ顧客要望に応じたサービスや商品を生み出す体制を作り、顧客価値の向上を推進してきました。

主な成果として、表面がフラットでデザイン性に優れた高級金属ファスナー製品やインド内需パンツ用として低コストを追求した織込みファスナー製品の開発、スナップボタン製品の新型成型技術の確立と展開によるコストダウン、また表面処

理技術において品質・コスト力を両立させる新製法の研究開発を進め、新製法を確立しました。

今後は第5次中期事業方針である「更なる量的成長を目指して」の実現のため、Standard市場での競争力を強化すべく、戦略・設計・試作の一気通貫開発体制構築による開発スピードアップ、世界のあらゆる顧客要望に対応するための海外開発拠点強化、縫製ベンダーとの協働を通じた更なる価値創造、また海外現地開発者の育成を目的に日本への出向者を増員し、中期的な海外開発力の更なる強化に結びつけます。当事業に係る研究開発費は9,010百万円です。

AP事業

AP事業は、第4次中期では窓事業の拡大・リフォーム分野の強化・エクステリア商品力の強化・ビル事業の強化・海外AP事業の拡大といった重点施策に取り組みました。

窓事業では業界初木目柄高耐候性ラミネートを外部側に施した樹脂窓「APW330」木目仕様を、住宅分野ではアルミ窓から大きく進化したアルミ樹脂複合窓「エピソードNEO」を開発しました。リフォーム分野では業界初ノンシールカバー工法戸建住宅用「かんたん マドリモ」を販売開始しました。エクステリア事業では「ルシアス」シリーズを拡充し、ビル事業では自然換気商品・改装商品充実を行いました。海外AP事業

では各国の気候・風土に合わせた商品開発を進めました。

一方で「かんたん マドリモ」が平成28年度省エネ大賞「資源エネルギー庁長官賞」を受賞し、商品力・技術力の高さが認められました。

また「YKK AP R&Dセンター」を開設し、技術者集結による開發生産性向上、プロユーザーとの接点強化に努めました。

今後は厳しい市場環境を見据え、商品力の徹底強化、窓・開口部まわりも含めた高付加価値の提供、顧客視点の仕組み・仕掛けを構築し、AP事業ならではの価値提供にまい進します。当事業に係る研究開発費は9,027百万円です。

その他

工機技術本部はYKKグループに共通する技術開発機能の更なる強化に向けて、「ファスナー専用機械メーカー」、「窓ライン専用機械メーカー」として進化するための技術開発力強化に努め、YKKグループの経営の根幹である「一貫生産思想の継続的進化」を目指しています。

2016年度はファスニング事業の技術開発において、定期的な設備開発サイクルによる新たな仕上機やスライダ組立機の開発検証、「設備総合効率」の考えに基づく国内外主要工場の製造ラインの合理化・改善に向けての推進体制を整備しました。またAP事業の技術開発では、樹脂窓「APW330」の

製造能力向上やアルミ樹脂複合窓「エピソードNEO」の製造ライン立ち上げ等を行いました。2017年度はこれらの展開と併せて新たに事業に特化した専用の要素技術開発として「ロボット活用技術力の強化」を図り、事業競争力の更なる強化を目指していきます。

これらに向けての必要な強化すべき要素技術について、自社内開発による技術深耕を図る一方で、企業・大学との連携による社外技術の導入や共働開発を積極的に行ってまいります。当本部による研究開発費は3,879百万円です。